

# にもかかわらず愛されるとき、 奇蹟は起きる

## 三浦綾子の人生と文学が語る希望



『氷点』『塩狩峠』の作家三浦綾子さんをご存知でしょうか？戦時中軍国教師であったことから、敗戦後に大きな挫折絶望に陥った彼女は、生きる目的を喪い、罪責感にさいなまれました。さらには当時は死の病であった結核、脊椎カリエスとの闘い、自殺未遂、愛する人の死……と、多くの苦難を通りながら、綾子さんは、希望の物語とことばを語りつづける作家になってゆきました。この三浦綾子さんの人生。彼女を生き返らせ、成長させ、支え、励まし、導いたものは何だったのでしょう。彼女の人生と文学はその秘密を語り、私たちにも希望を与えてくれます。講演では綾子さんの自伝『道ありき』を中心に、その核心を分かりやすくお伝えしたいと思います。

日時 2019年10月12日(土) 13:30~15:00

会場 取手ウェルネスプラザ 取手市新町 2-5-25

JR 常磐線取手駅西口・関東鉄道常総線取手駅より徒歩約3分

入場無料 申込み不要

楽しく分かりやすいお話ですので、どなたでもお気軽にご参加ください。

講師 森下辰衛 もりしたたつえ 三浦綾子記念文学館特別研究員

1962年岡山県生まれ。1992年から2006年3月まで福岡女学院短大および大学で日本の近代文学やキリスト教文学などを講義。2006年、家族とともに『氷点』の舞台旭川市神楽に移住し、三浦綾子文学館特別研究員となる。2007年、教授の椅子を捨てて大学を退職して以来、研究と共に日本中を駆け回りながら三浦綾子の心を伝える講演、読書会活動を行なっている。著書に『「氷点」解凍』（小学館）、『塩狩峠』の続編小説『雪柳』（私家版）、編著監修に『三浦綾子366のことば』『水野源三精選詩集』（いずれも日本基督教団出版局）がある。NHKラジオ深夜便明日への言葉、テレビライフラインなどに出演。



お問い合わせ 0297-75-6243 (荒川)

主催 取手三浦綾子読書会